

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 30 年度

事業所番号	2775502699		
法人名	社会福祉法人 登守会		
事業所名	グループホーム穴太のせせらぎ		
所在地	大阪府八尾市宮町三丁目4-52		
自己評価作成日	平成 30年 5月 19日	評価結果市町村受理日	平成 30年 8月 13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JkyosyoCd=2775502699-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JkyosyoCd=2775502699-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 30年 7月 21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日中は広い敷地を活かして、開放的な環境を整えています。利用者1人1人の生活リズムを尊重した支援を実践しており、ご家族が気軽に来訪していただける環境を目指しています。看取りケアの実践数も多く、終末まで利用者のご家族が安心して過ごして頂けるよう日々取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地元出身の創業者が、異業種から福祉サービスの業界に参入し、地域への還元を考え 社会福祉法人を創設して運営するグループホームです。ホームは市街地の幹線道路に面した広い敷地の奥に立地し、ホームの前には四季折々の花を咲かせる庭園があり、利用者が散策や外気浴を楽しむ場所となっています。「心寄り添う暮らしをめざします」「心穏やかに生活できる環境を創造します」「心安らぐ信頼のホームを実現します」の理念を掲げ、「利用者の心を第一」のケアを実践しています。利用者一人ひとりの長い人生に思いを馳せた介護計画に沿った実践は、利用者主体の「その人らしい暮らし」となって、リビングから聞こえてくる笑い声や会話は利用者が中心になっています。ホームでの看取りも実施しており、職員は看取りケアの経験での貴重な学びを日常のケアに活かしています。「『自分の家にいるみたいと思えるホーム』『業務ではなく、人対人で向き合える温かい空気』が自慢です」と言う管理者以下職員が支える利用者の暮らしで、温かく穏やかな、雰囲気を作っているグループホームです。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	<p><b>○理念の共有と実践</b></p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>利用者や家族の「心」を第一にした施設理念を掲げ、これらは施設玄関入口やパンフレット、契約書等にも記載しています。管理者と職員は折にふれ会議等で施設理念について理解・共有する機会を設けています。</p>	<p>『心寄り添う暮らしをめざします』『心穏やかに生活できる環境を創造します』『心安らく信頼のホームを実現します』を理念に掲げ、「利用者の心を第一」のケアを実践しています。理念は、パンフレットや契約書・重要事項説明書の表紙に記載し、利用者・家族・地域住民にも理解してもらう工夫をしています。また、玄関にも掲示しています。職員へは、入職時のオリエンテーション時はもちろん、会議や勉強会等で理念の確認を行っています。</p>	<p>今後は、理念に沿って年度ごとに目標を立て、さらなる理念の実践に繋げてはいるかがでしょうか。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会や包括支援センターの協力のもと、2ヶ月に1度「介護予防教室」を開催しており、多数の地域住民の方々にご参加いただいています。	地元出身の創業者が開設したホームで、地域との交流は自然に行われています。地域包括支援センターの協力のもと、2ヶ月に1回開催している「介護予防教室」も回を重ねる度に参加者が増えてきています。ボランティアによる、心身ともに楽しむ体操や琴の演奏等、利用者は楽しいひと時を地域の住民と過ごしています。ホームでは認知症や介護に関する相談を受けることも多くなっています。「介護予防教室」の案内は、自治会の回覧板でも回してもらっています。開設から13年間、ホームと地域との交流で、認知症に対する地域の目が自然体変わってきました。高齢化が進む地域の中で、いつでも相談できる頼りになる存在でありたいと、取り組んでいく考えです。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	「介護予防教室」では、地域の方々に、認知症高齢者について理解していただけるよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p><b>○運営推進会議を活かした取り組み</b>                      運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議は2ヶ月に1回偶数月に開催しています。メンバーは地域包括職員、民生委員、高齢者クラブ会長、家族代表、ホーム管理者です。会議内容は主として2ヶ月間のホームでの活動内容・利用者状況です。会議開催は毎回、家族への便りで告知し、広く参加を呼びかけています。</p>	<p>2ヶ月に1回運営推進会議を開催しています。会議には、地域包括支援センター職員、民生委員、高齢者クラブ代表、家族代表等が参加しています。会議では、主にホームの状況、行事の内容等を報告・説明し、参加者から評価や助言を得て、ホームの運営に活かしています。今後は会議の内容も検討し、報告中心の会議ではなく、ホーム内で困っていること、悩み・課題なども理解してもらい、アドバイスを得る場としても活用し、サービスの向上に活かしていきたいと考えています。</p>	
5	4	<p><b>○市町村との連携</b>                      市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市町村の担当職員とは、報告や相談、情報交換に努めており、常に協力体制を築いています。</p>	<p>運営推進会議には地域包括支援センター職員が毎回参加しており、情報や助言を得ています。地域包括支援センターが主催する行事には積極的に参加し、交流の機会を作っています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b>                      代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束マニュアルを作成して、職員は研修を実施しています。日中は玄関扉の施錠はせず、利用者の外出希望にも対応しており、開放的な雰囲気作りを目指しています。</p>	<p>「身体拘束廃止に関する指針」を作成し、職員は研修や勉強会で身体拘束について学びながら、身体拘束を行わないケアを実践しています。玄関やホーム内は開放的で、利用者は思いのまま自由に過ごしています。利用者の散歩や外出希望の仕草を感じた時には職員はいつでも一緒に出かけています。職員は日常会話の中でも利用者に丁寧な言葉かけを行っています。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b>                      管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>利用者の尊厳を大切に、どんな接し方や言葉遣いが適切なのか、定期的に会議などで話し合う機会を設けています。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b>                      管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在、1名の利用者が成年後見制度を活用しており、必要に応じて助言や援助ができるよう研修等で学んでいます。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p><b>○契約に関する説明と納得</b>                      契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に関する変更や改定がある場合は、事前に担当者から報告・説明を行っています。</p>		
10	6	<p><b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b>                      利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>施設玄関ホールに意見箱と専用用紙を設置しており、ご家族が匿名でも意見が言える環境作りに努めています。</p>	<p>ホーム入り口には意見箱を設けていますが、家族は意見・要望があればいつでも職員に直接話せる関係にあります。家族の面会時には職員が積極的に声をかけて利用者の日常の様子を伝えています。月1回家族あてに「せせらぎだより」を発行して利用者の日常の様子を写真と共に送付しています。各利用者の詳細な日々の様子も併せて職員が書面で知らせています。面会回数の少ない家族や、意見・要望を出しにくい家族に配慮してアンケート用紙も同封して意見・要望を聞いています。利用者や家族からの意見・要望に対しては、いつでもできる限り臨機応変に対応しています。</p>	<p>家族の意見・要望を更に有効にするため、ホームとして確認したいテーマに絞り、アンケートを実施されてはいかがでしょうか。その際、ホームの取り組み状況での良いところ、評価できる点も同時に確認されてはいかがでしょうか。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p><b>○運営に関する職員意見の反映</b>                      代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者と職員が、日常的に意見や提案ができる機会があり、職員から提案された企画や意見を施設運営に反映できる体制を整えています。</p>	<p>管理者は日常的に職員の意見、提案を聞き入れ、その都度対応するように心がけています。管理者は職員を信頼し、会議や日常に於いても何でも話しやすい雰囲気を作り、職員同士はいつでも良好な温かい協力関係が育っています。管理者と職員間の関係はオープンでとても良好です。職員は日常の業務を通じて業務の改善事項や課題について会議で提案し、話し合い、管理者は可能な限り職員の意見を運営に反映させる体制を整え、実施しています。</p>	
12		<p><b>○就業環境の整備</b>                      代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員がやりがいを持って働ける給与水準・職場環境に努めています。</p>		
13		<p><b>○職員を育てる取り組み</b>                      代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設代表者は常に施設に勤務しており、管理者・職員の業務内容の把握に努めています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「介護予防教室」開催に際し、同業者からの協力を仰ぐ機会が増えました。この関係は今後も継続していきたいと考えています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設利用の有無に関わらず、随時相談や援助ができる環境作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所までの間に、何度も面談を重ね、利用者や家族が安心して施設利用ができるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて他サービスについての情報提供や助言を行っています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設での生活は利用者主導を基本としていて、その中で利用者と職員が互いに協力し助け合いながら過ごしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時や、月1回郵送で送る便りで、必ず利用者の状況を報告し、相談・援助を受けながら、共に支えていく状況にあります。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力も仰ぎながら、買い物や外食、外泊支援などを行っています。	家族の協力を得て自宅を訪問する利用者がいます。時には自宅で宿泊もします。家族や職員と共に馴染みの店へ買い物や外食に出かけています。入居前に利用していたヘルパーステーションの職員がホームへ顔を見せに来てくれます。ホームでは、これまで利用者が大切にしてきたつながりを可能な限り継続できる支援を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、食事席などを調整。関わりが困難な場合も職員が間に介することで、孤立しない配慮を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、できる限り相談や援助が継続できる関係に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの希望は、利用者や家族から聴取しており、職員間で共有し、日々の介護に活かすようにしています。	入居時のアセスメントや、その後の利用者、家族の会話や表情から利用者の意向を把握してケアに活かしています。利用者の意向は年の経過や環境の変化と共に異なってくるため、常に要望を聞きとり、センター方式のシートに追記しながらケアプランに活かせるよう職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所までのご様子や状況等は、事前に家族やサービス事業所、ケアマネ等から情報を収集しており、可能な限り馴染んだ暮らしを継続できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前の情報やセンター方式などを用いながら、生活歴・趣味や嗜好などの情報収集に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は更新時と、状態の変化時に作成しています。サービス担当者会議も最低月1回は実施し、ご本人や家族の要望、介護職員からの意見の収集に努めています。</p>	<p>センター方式のシートを活用し、利用者・家族の思いや希望を尊重した介護計画になっています。基本は6ヶ月毎に見直し、状態に変化があった場合は随時見直しています。モニタリングは、計画作成担当者が職員への聞き取りを行い、毎月実施しています。計画は、目標に沿った具体的でわかりやすい援助内容で、現場職員に共有されています。計画作成担当者は、計画を作成するうえで「本人や家族の話から出たエピソード」「本人が元気だった時への思い」を大切に、利用者一人ひとりの長い人生に思いを馳せて計画を作成しています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>利用者ごとに個別ケア目標を作成しています。これらの内容は、介護計画書とも連動したもので、個別ケア目標の達成状況は介護計画書の見直しにも役立っています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>利用者やご家族からの要望には、可能な限り対応しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市町村のボランティアの協力を受けた り、地域の自治会などの協力体制も整備されています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関は整備されていますが、利用者や家族の希望に応じた医療機関への受診支援も可能です。ホームでは1週間に1回、医師や看護師、薬剤師の往診があり、それぞれが利用者の状態を共有し、健康面での管理や、夜間緊急時の体制も整えています。	入居前からのかかりつけの医療機関へは、希望があれば受診可能です。ホームの協力医療機関の医師による往診を、週1回全利用者が受けています。往診時は、医師・看護師・薬剤師3人が訪問しています。医師や看護師の医療的説明に加え、薬剤師による薬の説明は、本人・家族・職員の安心に繋がっています。歯科・眼科の往診もあり、必要な利用者が受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制が整備されており、最低でも週1回以上、看護師の訪問があります。利用者に関する気になることや状況はその際に伝えておけば、主治医に報告・相談され、それにより適切な医療が迅速に受けられる体制となっています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p><b>○入退院時の医療機関との協働</b></p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院加療が必要な際は、できるだけかかりつけ医院で、利用者が安心して治療を受けられるよう支援しています。また入院期間中も、担当医と密に連絡を取り、早期退院を目指します。</p>		
33	12	<p><b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b></p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期に向けた指針に施設の理念や職種の果たす役割などもわかりやすく明示しており、同意書を作成して利用者、家族の意向や希望に添って医師や看護師等とチームケアで看取りを行っています。</p>	<p>看取りは「看取りに関する指針」に基づいて、利用者・家族の意向を尊重して対応しています。重度化した時には家族に意向を聞き取り、家族の協力についても理解を得るようにしています。看取りの研修の実施や看取りのマニュアルも作成しています。ホームでの看取りを実施しており、看取った利用者の家族からの、「顔が穏やかなので何も言うことはない。ここで看取ってもらって良かった」等の感謝の言葉に、職員は、人生の最期を任せてもらっていることに感謝ができるようになりました。看取りでの貴重な学びを、日常のケアに活かしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p><b>○急変や事故発生時の備え</b>                      利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時や何らかの事故が発生した場合、医師の指示の下、迅速に応急処置や初期対応を実施します。</p>		
35	13	<p><b>○災害対策</b>                      火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の指導を受け、年2回の避難訓練を実施しています。飲料水や食料品等は2日分程を目安に保管しており、災害時に備えて排泄の対応や防寒具の準備も進めています。消化器や非常出口の扉も緊急時にすぐ開錠できるよう、周辺環境にも注意を払っています。</p>	<p>毎年消防署の指導のもと、年2回の防災避難訓練を実施しています。訓練の際には、隣接の高齢者専用賃貸マンションにも声かけして参加してもらっています。非常時の飲料水や食料品の備蓄もしています。最近発生した地震や大雨の後、備蓄品を2階に移動し、非常災害時への対策を強化しました。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者それぞれの生活ベースを尊重しています。声かけや接し方はその方の誇りやプライバシーに配慮した丁寧なものであるよう常に心がけています。個人情報の取り扱いについても、職員採用時の契約事項としています。	管理者は日常の中で、利用者の尊厳に配慮したケアについて、「トイレ誘導時は耳元で」「居室に入る時は声かけをする」等、職員に具体的に伝えています。職員は、利用者一人ひとりに配慮した言葉かけや見守りを心がけています。定期的にプライバシー保護や接遇の学習会も実施しています。家族や利用者の側で他の利用者の話しをしてしまうこと等、気が緩んだ時にしていまいがちな言動にも意識するようにしています。「心」を第一に考えた理念の実践によって、利用者への接し方が優しく、ホームの穏やかな雰囲気を作っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着衣のコーディネートやお部屋のレイアウト、その時々行動等、日々の生活の中で利用者自身が考え、自己選択する習慣を大切にしています。ん		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	予め決まっている往診や行事以外、特に生活の予定は決めず、可能な限り個々の利用者のその時の体調や希望に添って過ごせるよう援助しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類や装飾品は、利用者が選択したり気に入ったものを着用しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食のご飯と味噌汁、朝食はホームで調理しています。昼食、夕食は業者へ委託しており、予め調理済みの食事が届きますが、配送された食材の整理、食器への盛り付けや食卓の準備等は利用者と一緒にしています。誕生日会には、利用者と一緒にケーキ作りをしたり、季節の楽しみとしてそーめん流しやスイカ割りなどを利用者と共に楽しんでいます。	食事について、以前はホームで作っていましたが、利用者の重度化もあり、利用者に関わる時間をより多く持つために、昼・夕食は業者に委託しています。朝食や昼・夕食のご飯と汁物はホームで、職員が利用者の嚥下状態に合わせた形態に調理しています。誕生日会には利用者と一緒にケーキを作ったり、おやつを作る時もあります。好きな食器で食べてもらう、自分が食べたい時間に、自分のペースで食べてもらう等、食事を楽しんでもらう配慮をしています。車いすの利用者も、食卓の椅子に移り座って食事する光景は、ホームでは当たり前になっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者毎に食事量・水分量を24時間チェック表で管理しており、施行や食べ方も観察し、介護記録に記載しています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者全員に、毎食後口腔ケアを行っています。嚥下機能が低下している利用者には個々に口腔マッサージを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、利用者1人1人の行動パターンや習慣を把握して、さりげなくトイレ誘導を行っています。排泄の自立に向けて、布製下着を着用している利用者には、できるかぎりオムツを使わないように支援しています。	トイレでの排泄を基本とし、利用者一人ひとりの排泄リズムに合わせた介助を行っています。また、利用者の仕草や表情から状況を判断し、声かけや誘導も行っています。排泄の記録も解りやすく丁寧に書いています。羞恥心に配慮したケアを心がけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給と運動、腹部のマッサージ、また果物やヨーグルト等の摂取等で日常的な便秘解消に取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望があれば、毎日でも入浴可能ですが、最低でも週3回は入浴していただけるよう援助しています。入浴が困難な時には、足浴や清拭などで対応しています。	基本は、1週間に3回の入浴となっています。入浴日以外でも希望があれば入浴できます。車いすの利用者や重度化に伴う身体機能の低下がみられる利用者にも、できるだけ湯船に入れるよう職員が数名で介助しています。入浴を好まない利用者には無理強いせず、声かけの工夫や職員間の連携で安心して入浴してもらっています。菖蒲湯やゆず湯等、季節ごとに楽しんでもらう工夫もしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	できるだけ睡眠導入剤等は使用 せず、まずは1人1人が落ち着 く照明や寝具、ホットミルクや 軽食等で対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	個々の利用者が服用している内 服薬については、その効用や副 作用について、週1回訪問され る薬剤師から説明と服薬ファイ ルから学んでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	好きな音楽、テレビ、読書、園 芸など、個々の利用者の好み に応じた内容で対応しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。又、普段は 行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出か けられるよう支援している	近隣公園へのドライブ、お花見 、外食など、個々の利用者の 希望に添った戸外への外出援 助を実施しています。時には家 族の協力も得ることもあります 。広い敷地に恵まれ私道や庭 園への散策、玄関先やベラン ダでの外気浴は日常的に実施 しています。	利用者は、日常的にホーム前 の広い庭園へ出て花を眺めたり 、椅子に座って日光浴をしたり 、近くを散歩したりしています 。桜など季節の花を見にドラ イブすることもあります。家 族と自宅へ帰ったり、お墓参 りや通院、気分転換等で出か けています。外出の機会を増 やし利用者に喜んでもらうホ ームの努力は、家族にも喜ば れています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p><b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現在、お1人の利用者が自己で金銭管理をされています。</p>		
51		<p><b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>施設の外線電話を使用して、電話を取り次ぐ事が可能です。</p>		
52	19	<p><b>○居心地のよい共有空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>広い敷地に恵まれ、庭園では四季折々の花や実を咲かせ、ベンチで日光浴や散策を楽しむことができます。ホームのリビングや廊下は明るく開放的な雰囲気作りを心がけています。壁面には季節ごとの飾り付けを施しています。</p>	<p>ホームは市街地の幹線道路に面した広い敷地の奥に立地し、ホームの前には四季折々の花を咲かせる庭園があり、利用者が散策や外気浴を楽しむ場所となっています。菜園ではスイカが作られ、利用者は収穫を楽しみに待っています。ホーム内は広く明るく開放的です。食卓と離れた所に大きなソファが置かれ、新聞、雑誌、テレビを見ながらゆっくりと寛げる空間となっています。壁には季節を感じる飾りつけが工夫され、行事の際の写真も掲示されています。リビングのカウンター越しのキッチンからは、ご飯の炊ける匂いや食事の準備の音が聞こえ、生活感が漂っています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々々の場面に応じて、ソファや椅子、テーブルの位置を変えることができ、それぞれが居心地良く感じることができる雰囲気作りに努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドは利用者の状態に応じて、木製ベッドと電動式ベッドを使用しており、室内は、家族の協力を得て可能な限り使い慣れた家具を持参して頂いています、それぞれに個性のある居室となっています。	本人が気持ちよく過ごせる居室づくりを大切にしています。利用者は馴染みの家具やテレビなど、入居するまで使用してきたものを継続して使っています。仏壇を持ってきている利用者もいます。カレンダーや家族の写真等を飾り、利用者一人ひとりの好みに合わせた居室づくりを支援しています。家族の訪問時に、自分の部屋でお茶が飲めるように、ポットやお茶セットを用意している利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の個別ケア目標は、それぞれの能力を維持・継続できるための支援内容となっており、介護職員はそれらを日々実践しています。		